大阪公立大学 Osaka Metropolitan University 学術情報リポジトリ

大学生の性行動およびライフスキルの実態

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2012-10-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 林, 桐代, 町浦, 美智子, 佐保, 美奈子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005547

Journal, Sch. of Nurs, Osaka pref. Univ. Vol. 18 No. 1
大阪府立大学看護学部紀要　18巻 1 号, 2012

研究報告

大学生の性行動およびライフスキルの実態

Survey of sexual behavior and life skills among university students

林　桐代・町浦　美智子・佐保　美奈子
Kiriyo Hayashi，Michiko Machiura，Minako Saho

キーワード：大学生，性行動，ライフスキル
Keywords: university students，sexual behavior，life skills

Abstract

The purpose of this study was to clarify the sexual behavior and life skills among university students. Self-reported questionnaires were distributed to the university students in Kinki area, and the data from 811 responses were analyzed. As the results, the rate of sex experience was about 60% of the whole students. Also 90% of those who have girlfriends or boyfriends have experienced sex, and 60% of them have used certain contraceptive methods.

Among life skills, the mean score of target setting skills was generally high, however, the mean score of the students who have boyfriends or girlfriends was significantly high ($p<0.05$). Regarding decision-making skills, the mean score of the students who don't have boyfriends or girlfriends was significantly high ($p<0.05$), and as for communication skills, many students had conversations on sex with their partners, but there was a tendency that women couldn't tell their true feelings compared to men.

From these results, it was found that the characteristics of life skills among university students have influenced by sex or whether they have partners or not. Hereafter, the relationship between sexual behavior and life skills will be analyzed, and sexual education based on life skills should be considered in the future.

要　　旨

本研究の目的は，大学生の性行動とライフスキルの実態を把握することである。近畿圏内の大学生に質問紙を配布し，回答の得られた811名について分析を行った。その結果，セックス経験のある学生は全体で 6 割，交際相手がいる学生では 9 割であり，なかでも確実な避妊をしている学生は約 6 割であった。

ライフスキルのうち，目標設定スキルは全体的にも平均点が高かったが，交際相手がいる学生のほうが，有意に高かった（$p<0.05$）。意思決定スキルの平均点は，交際相手のいない学生のほうが有意に高く（$p<0.05$），コミュニケーションスキルでは，多くの学生が性について交際相手と会話をもっていたが，女性のほうが本音を伝えられていない傾向にあった。

以上より，大学生のライフスキルは，性別や交際相手の有無により左右される特徴があることがわかった。今後は性行動とライフルキルの関連性を分析し，ライフスキルを基盤とした性教育の方法を検討していきたい。

受付日：2011年 9 月30日　受理日：2011年12月 5 日
札幌市病院局市立札幌病院看護部看護課

Ⅰ．はじめに

日本性教育協会の調査（2007）によると，大学生の性交経験率は男女とも約 6 割であり，交際相手のいる学生では 9 割にも上った。しかし避妊実行率は「いつも実行している」ものは約 6 割で，方法もコンドームに次いで多いのが膣外射精，荻野式となっており（日本性教育協会，2007），避妊行動および方法の曖昧さが伺える。大学在学中の年代におけるできちゃった結婚（以下妊娠先行型結婚とする）は，10代，20代それぞれの婚姻数のうち8割， 6 割を占め，増加傾向にある（厚生労働省，2009）。大学在学中に，自分または交際相手が妊娠・出産となると，育児負担や経済面の確保により勉学に支障が生じたり，特に女子は退学や休学を迫られるなど，自分の人生設計に直接的な影響を及ぼす（安達，2008）。よって，予期しない妊娠・出産に伴うリスクから回避できるよう，確実に避妊を実行する必要がある。

近年の性教育は，従来の知識中心型授業に比べ，ライフスキルを組み入れた性教育プログラムが有効とされ（松本ら，2004，富岡，2007）注目されている。木村（2001-1）も，知識の提供は行動変容の動機づけにはなるが，実際の行動変化に結びつけるにはライフスキルの向上が重要であると述べている。WHO（1997）によると，ライフスキルは「日常生活で生じる様々な問題や欲求に対して，建設的且つ効果的に対処するために必要な能力」と定義され，意思決定，目標設定，自己認識，コミュニケーションスキル，ストレスマネジメントの 5 つに分類される。若年妊娠や性感染症を引き起こす恐れの高い性行動，暴力，薬物乱用などの様々な危険行動の根底には，こうしたライフスキルの問題が共通の要因として存在しており，ライフスキルの向上がこれらを予防する根底として重要であるとされている（川畑，2002）。これまでのライフスキルをテーマとした研究は，中高生を対象としたものが主であり（川畑ら，2007，富岡，2007），大学生を対象としたものは少ない。そのため，本研究では，大学生の性行動とライフスキルの実態を明らかにし，ライフススキルを基盤とした性教育の方法を検討する上での基礎的データを得ることを目的とする。山口ら（2007）は，自分の目標が見えている場合，今子どもができても育てられない等の理由から避妊を実行する率が高くなると述べており，関塚ら（2004）は避妊を自分の意思で実行しようとする自己意思決定の程度と避妊行動には，有意に関連があったと述べている。さらに羽岡ら（2006）はパートナーと避妊について話し合えるかは，避妊の実行と有意に関連があると述べている。これらの先行研究より，本研究では人生設計という目標設定をもったうえで，自分の性行動について意思決定できているか，また相手に自分の意思を伝えるコミュニケーションスキルを有しているかに注目し，ライフスキルの中でも目標設定，意志決定，コミュニケーションスキルの3つに焦点をあてた。

Ⅱ．研究目的

大学生の性行動と，ライフスキルのうち目標設定，意思決定，コミュニケーションスキルの実態を明らかにし，性教育の方法を検討するための基礎データを得る。

Ⅲ．用語の定義

性行動：性的接触（デートをする，手を握ったり腕を組む，キスをする，ペッティングをする，セックスをする）およびセックスをする際の避妊行動（妊娠を望まない場合，受胎を防ぐために薬剤や器具を使用し，または月経周期における排卵誘発剤や射精の方法を考慮して性交を行うこと）を含む

ライフスキル：目標設定スキル，意思決定スキル，コミュニケーションスキルの 3 つとする。人生設計を立て，自分又は交際相手の妊娠・出産がそれにおよぼす影響を認識し，人生設計をふまえた性行動に関する意思決定及び意思決定したことを相手に伝えられるコミュニケーションスキル。

Ⅳ．方法

対象者

便宜的標本抽出により，医療系・看護系大学を除くA府内と近隣の大学，合計19大学48学部の学部長または学科長に研究協力の依頼書を郵送し，そのうち研究協力の許可を得られた 9 大学11学部の学部に通う大学生934名。

2．調査方法

無記名自記式質問紙による質問紙調査とした。協力の得られた各大学で，講義終了時に調査者が研究の目的と内容，倫理的配慮について説明し，研究依頼書と質問紙を配布した。回収された質問

紙により同意が得られたものと解釈し，質問紙記入後は回答者自身で封筒に入れ，密封後，その場で回収箱に投函してもらった。

3．調査期間

平成21年6月初旬～ 10月末

4．調査内容

1）基本属性：性別，年齢，学年，学部，交際相手の有無

2）性行動

⑴　経験したことのある性行動：「デートをする」「手をつないだり腕を組む」「キスをする」「ペッティングをする」「セックスをする」の5つから経験したことのある項目全てを選択してもらった。交際相手のいる学生には，現在の交際相手とのセックス経験の有無も尋ねた。

⑵　避妊行動：現在交際相手がいる学生の中で，現在の交際相手とセックス経験のあるものには，避妊の頻度と方法，避妊をしない場合はその理由を選択してもらった。また，セックス経験のないものにはセックスをしない理由を選択してもらった。それぞれの選択肢は以下に示す。

①避妊の頻度：「いつもする」「妊娠の危険の高い時のみ避妊する」「妊娠　　の危険に関わらず避妊しないこともある」「いつもしない」

②避妊の方法:「コンドーム」「低用量ピル」「殺精子剤」「基礎体温法」「荻野式」「膣外射精」「膣内洗浄法」

③避妊をしない理由：「面倒だから」「準備していないから」「多分妊娠しないと思うから」「避妊を言い出せないから」「相手に断られるから」「妊娠しても中絶すればよいと思うから」「子どもが欲しいから」「子どもができたら産むつもりだから」「その他」

④セックスをしない理由：「結婚前にSEXをするべきでないから」「妊娠を避けるため」「十分関係が築けていないから」「セックスをしたいと思わない」「相手のセックスはしたくないという気持ちを尊重して」「まだ機会がないから」

3）ライフスキル

⑴　目標設定スキル

①人生キャリア計画性尺度（坂柳，1999）：9項目から構成され，「あてはまる」～「あてはまらない」の5段階のリッカートスケールである。得点範囲は9 ～ 45点で得点が高いほど人生キャリア計画性が高いことを意味する。

②就職・結婚・子どもをもつことに対する考え：就職や進学については「する」「しない」「まだ考えていない」から選択してもらい，結婚や子どもをもつことについては「したい」「したくない」「考えたことがない」から選択してもらった。

③自分又は相手の妊娠・出産が，自分の生活や人生設計に与える影響の認知：7項目で構成し,「そう思う」～「思わない」の4段階のリッカートスケールである。得点範囲は7 ～ 28点で，得点が高いほど妊娠・出産が自分の生活に影響を与えるリスク認知が高いことを意味する。

⑵　意思決定スキル

人生設計を踏まえた避妊の意思決定の程度を尋ねた。5項目で構成し「そ　う思う」～「思わない」の4段階リッカートスケールである。得点範囲は5 ～ 25点で，得点が高いほど意思決定が高いことを意味する。

⑶　コミュニケーションスキル

①セックスをしたくない時に相手に伝えることができるか：「できる」「場合による」「できない」「そのような場面がない」から選択してもらった。

②交際相手とセックスや避妊について話をするか

③交際相手と妊娠したらどうするか話をするか

②③は「よく話す」「時々話す」「あまり話さない」「話したことがない」から選択してもらい,「話したことがない」と答えたもの以外には，交際相手と話している内容とともに，自分の本音についても尋ねた。

5．データ分析

大学生の性行動とライフスキルの現状を知るために，対象者の基本属性，性行動，ライフスキルについて単純集計を行った。さらに，性別や交際相手の有無により，性行動やライフスキルに違いがあるかを明らかにするために，順序尺度はMann-Whitney U検定，名義尺度はPearsonのχ^2検定を用いて有意差検定を行った。有意水準は5%とした。

6．倫理的配慮

講義後に研究者が書面と口頭で研究の趣旨，研究の参加は自由意思であり，参加の可否により不

利益は被らないこと，個人情報とプライバシー保護に関する説明をし，研究依頼書と質問紙を配布した。なお，本研究は大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認（申請番号21－14）を得て行った。

Ⅴ．結果

1．調査結果の概要

1）質問紙の配布および回収状況

研究協力の承諾が得られた9大学11学部に通う大学生，934名に質問紙を配布し，840名（回収率89.9%）から回収した。

2）分析対象

回収した840名のうち，無回答が多かった9名，性行動に記載がなかった18名，同性交際者1名，社会人学生1名を除く811名（有効回答率86.8%）を分析対象とした。

2．対象者の属性

対象者の属性を表１に示す。

性別は女性433名（53.4%），男性378名（46.6%）であった。

平均年齢は19.76歳±1.44歳（mean±SD）で，学年は１年生239名（29.5%），２年生230名（28.4%），３年生301名（37.1%），４年生41名（5.0%）であった。

交際相手の有無では，283名（34.9%）の学生が，現在異性の交際相手がいると答えた。

3．性行動の実態

1）これまでに経験した性行動

性別と交際相手の有無で，経験した性行動に違いがあるか有意差検定を行い，その結果を表2に示した。性別では全ての項目で有意な差は認められなかったが，交際相手の有無別では，交際相手がいる学生のほうが全ての項目において有意に経験者が多かった（p＜0.001）。

2）避妊の頻度と方法

現在の交際相手とセックス経験のある学生247名に，避妊の頻度と方法を尋ねた。避妊の頻度は「いつもする」が185名（74.9%）と最も多かったが，「いつもしない」と答えたものも16名（6.5%）いた。なお，現在の交際相手とセックス経験がないと答えた学生36名の中には，避妊目的でNo SEXを選択している学生も３名いた。

使用している避妊方法を複数回答で答えてもらった。最も多く使用されていた避妊法はコンドーム233名（94.3%）であり，次いで膣外射精55名（22.3%），荻野式19名（7.7%）であった。

避妊の頻度で「いつもする」と答えた185名を除く62名に，避妊しない理由を尋ねた結果，「たぶん妊娠しないと思うから」が17名（27.4%）で最も多く，次いで「準備していないから」が16名（25.8%），「面倒くさいから」が10名（16.2%）であった。「子どもが欲しいから」という理由で避妊をしていない学生はいなかった。

表１　対象者の基本属性N=811

属　性	区　分	人数	%
性別	女性	433	53.4%
	男性	378	46.6%
平均年齢（mean±SD）		19.76	±1.44
年齢	18歳	138	17.0%
	19歳	219	27.0%
	20歳	261	32.2%
	21歳	145	17.9%
	22歳	29	3.6%
	23歳以上	19	2.3%
学年	１年	239	29.5%
	２年	230	28.4%
	３年	301	37.1%
	４年	41	5.1%
学部	文系	730	90.0%
	理系	81	10.0%
交際相手の有無	現在交際相手がいる	283	34.9%
	過去に交際相手がいた	341	42.0%
	交際の経験はない	187	23.1%

表２　性別・交際相手有無別にみたこれまでに経験した性行動

n=人数(%)

	デートをする	手をつないだり腕を組む	キスをする	ペッティングをする	セックスをする	
全体　N=811	621（76.6）	596（73.5）	556（68.6）	491（60.5）	455（56.1）	
女性 n=433	328（75.8）	313（72.3）	290（67.0）	252（58.2）	232（53.6）	n.s.
男性 n=378	293（77.5）	283（74.9）	266（70.4）	239（63.2）	223（59.0）	
交際相手あり n=283	268（94.7）	266（94.0）	263（92.9）	254（89.8）	249（88.0）	***
交際相手なし n=528	353（66.9）	330（62.5）	293（55.5）	237（44.9）	206（39.0）	

注）検定方法はPearsonのχ^2検定による　　n.s.=有意差なし　***= p＜0.001

4．ライフスキルの実態

1）目標設定スキル

この項目は，それぞれ無回答者を除く有効回答者を対象とし，性別・交際相手の有無別で分析をした。

⑴　人生キャリア計画性尺度

この項目は，無回答者６名を除く805名を対象とした。回答結果を表３に示した。

学生全体で，②これからの人生で，取り組んでみたいことがいくつかある，の項目は「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた学生が659名（81.9%）と，他の項目に比べ学生の意識が高い項目であった。

尺度全体の学生の平均点は29.80±6.39であった。正規性の検定を行った結果，正規性は認められなかったため，尺度全体の得点について性別・交際相手の有無別でMann-WhitneyU検定を行った。結果，性別では女性の平均点が30.00±0.29，男性が29.56±0.34で有意な差は認められなかった（p＝0.504）。しかし交際相手の有無別の平均点では，交際相手ありが31.52±0.28，交際相手なしが28.87±0.27であり，交際相手ありのほうが，人生

表３　人生キャリア計画性尺度

n=人数（%）

質問内容	程度	全体（N=805）	性別 女性（n=432）	性別 男性（n=373）	交際相手の有無 あり（n=283）	交際相手の有無 なし（n=522）
①これからの人生や生き方について、自分なりの見通しをもっている	あてはまる	210（26.1）	99（22.9）	111（29.8）	94（33.2）	116（22.2）
	ややあてはまる	315（39.1）	190（44.0）	125（33.5）	121（42.7）	194（37.2）
	どちらともいえない	187（23.2）	101（23.3）	86（23.0）	47（16.6）	140（26.8）
	あまりあてはまらない	69（8.6）	37（8.6）	32（8.6）	18（6.4）	51（9.8）
	あてはまらない	24（3.0）	5（1.2）	19（5.1）	3（1.1）	21（4.0）
②これからの人生で、取り組んでみたいことがいくつかある	あてはまる	376（46.7）	197（45.6）	179（48.0）	149（52.7）	227（43.5）
	ややあてはまる	283（35.2）	177（41.0）	106（28.4）	100（35.3）	183（35.1）
	どちらともいえない	91（11.3）	38（8.8）	53（14.2）	25（8.8）	66（12.6）
	あまりあてはまらない	40（5.0）	18（4.2）	22（5.9）	6（2.1）	34（6.5）
	あてはまらない	15（1.8）	2（0.4）	13（3.5）	3（1.1）	12（2.3）
③人生設計はあるけれど、それを実現するための努力は特にしていない(逆転内容)	あてはまる	92（11.5）	41（9.5）	51（13.7）	31（10.9）	61（11.7）
	ややあてはまる	200（24.8）	120（27.8）	80（21.4）	61（21.6）	139（26.6）
	どちらともいえない	271（33.7）	146（33.8）	125（33.5）	86（30.4）	185（35.4）
	あまりあてはまらない	163（20.2）	81（18.7）	82（22.0）	63（22.3）	100（19.2）
	あてはまらない	79（9.8）	44（10.2）	35（9.4）	42（14.8）	37（7.1）
④自分が望む生き方をするために具体的な計画をたてている	あてはまる	90（11.2）	36（8.3）	54（14.5）	38（13.4）	52（10.0）
	ややあてはまる	246（30.5）	144（33.3）	102（27.3）	107（37.8）	139（26.6）
	どちらともいえない	266（33.0）	144（33.3）	122（32.7）	81（28.6）	185（35.4）
	あまりあてはまらない	151（18.8）	91（21.1）	60（16.1）	42（14.9）	109（20.9）
	あてはまらない	52（6.5）	17（4.0）	35（9.4）	15（5.3）	37（7.1）
⑤これからの人生で何を目標とすべきか、分からない(逆転内容)	あてはまる	105（13.0）	47（10.9）	58（15.5）	21（7.4）	84（16.1）
	ややあてはまる	185（23.0）	102（23.6）	83（22.3）	60（21.2）	125（24.0）
	どちらともいえない	196（24.4）	114（26.4）	82（22.0）	66（23.3）	130（24.9）
	あまりあてはまらない	194（24.1）	112（25.9）	82（22.0）	78（27.6）	116（22.2）
	あてはまらない	125（15.5）	57（13.2）	68（18.2）	58（20.5）	67（12.8）
⑥希望する人生や生き方が送れるように、努力している	あてはまる	124（15.4）	67（15.5）	57（15.3）	64（22.6）	60（11.5）
	ややあてはまる	276（34.3）	156（36.1）	120（32.2）	102（36.1）	174（33.3）
	どちらともいえない	270（33.6）	140（32.4）	130（34.9）	79（27.9）	191（36.6）
	あまりあてはまらない	101（12.5）	58（13.4）	43（11.5）	28（9.9）	73（14.0）
	あてはまらない	34（4.2）	11（2.5）	23（6.2）	10（3.5）	24（4.6）
⑦これから先の人生のことは、ほとんど予想がつかない(逆転内容)	あてはまる	245（30.4）	101（23.4）	144（38.6）	73（25.8）	172（32.9）
	ややあてはまる	226（28.1）	141（32.6）	85（22.8）	72（25.4）	154（29.5）
	どちらともいえない	201（25.0）	107（24.8）	94（25.2）	77（27.2）	124（23.8）
	あまりあてはまらない	107（13.3）	69（16.0）	38（10.2）	45（15.9）	62（11.9）
	あてはまらない	26（3.2）	14（3.2）	12（3.2）	16（5.7）	10（1.9）
⑧今後どんな人生を送っていきたいのか、自分なりの目標をもっている	あてはまる	220（27.3）	97（22.4）	123（33.0）	93（32.9）	127（24.3）
	ややあてはまる	327（40.6）	193（44.7）	134（35.9）	120（42.4）	207（39.7）
	どちらともいえない	174（21.6）	100（23.1）	74（19.8）	53（18.7）	121（23.2）
	あまりあてはまらない	57（7.1）	34（7.9）	23（6.2）	14（4.9）	43（8.2）
	あてはまらない	27（3.4）	8（1.9）	19（5.1）	3（1.1）	24（4.6）
⑨自分が期待しているような人生をこの先実現できそうである	あてはまる	63（7.8）	22（5.1）	41（11.0）	24（8.5）	39（7.5）
	ややあてはまる	146（18.1）	83（19.2）	63（16.9）	65（23.0）	81（15.5）
	どちらともいえない	433（53.8）	239（55.3）	194（52.0）	146（51.6）	287（55.0）
	あまりあてはまらない	114（14.2）	68（15.8）	46（12.3）	36（12.7）	78（14.9）
	あてはまらない	49（6.1）	20（4.6）	29（7.8）	12（4.2）	37（7.1）

キャリア計画性が有意に高かった（p＝0.000）。

⑵　就職・結婚・子どもをもつことに対する考え

この項目は，無回答者７名を除く804名で分析をした。回答結果を表４に示した。卒業後の就職や進学は92.3%がすると答え，結婚および将来子どもをもつことについては94.9%の学生が何らかの考えを持っていた。性別では，子どもをもつことに対して「考えたことがない」の回答は女性が15名（3.5%），男性が26名（7.0%）で，男性のほうが有意に多かった（p＜0.05）。交際相手の有無別では，結婚と子どもをもつことについて「考えたことがない」の回答が，それぞれ交際相手ありで４名（1.4%），５名（1.8%），交際相手なしで37名（7.1%），36名（6.9%）で，交際相手なしのほうが有意に多かった（p＜0.001）。

さらに，将来の結婚や子どもが欲しいと答えた学生には，年齢について考えているかを尋ねたところ，結婚年齢について考えている学生は51.6%，子どもをもつ年齢については38.9%にとどまった。結婚年齢,子どもをもつ年齢ともに「考えている」と答えた学生は，性別では女性，交際相手の有無別では交際相手のいる学生のほうが有意に多かった（p＜0.05）（表５）。

⑶　妊娠・出産が自分の生活や人生設計に与える影響の認知

この項目は，無回答者14名を除く，797名で分析をした。回答結果を表6に示した。

①妊娠は学生生活を送るうえで障害となる，②妊娠で自分の将来が変わることになったら困る，③予定外の妊娠をしたら経済的に困る，⑤予定外の妊娠をしても大したことはない（逆転内容），⑥妊娠のことは妊娠した時に考えればよい（逆転内容）の5項目は，「そう思う」「ややそう思う」と答えた学生が，それぞれ97.6%，85.1%，95.5%，90.7%，86.7%と，他の項目に比べ学生の意識が高い項目であった。

この項目全体の学生の平均点は24.17±3.30であった。正規性の検定を行った結果，正規性は認められなかったため，項目全体の得点について性別・交際相手の有無別でMann-WhitneyU検定を行った。結果，性別では女性の平均点が24.85±3.15，男性で23.70±3.41であり，女性のほうが，有意にリスク認知が高かった（p＝0.000）。しかし交際相手の有無別の平均点では，交際相手ありが24.27±3.28，交際相手なしが24.12±3.31であり，有意な差は認められなかった（p＝0.512）。

表４　性別・交際相手有無別にみた就職・結婚・子どもをもつことに対する考え

n=人数(%)

質問内容	回答	性別 全体（N=804）	女性（n=431）	男性（n=373）		交際相手の有無 あり（n=283）	なし（n=521）	
卒業後の就職（または進学）	就職・進学する	742（92.3）	402（93.3）	340（91.2）		263（93.0）	479（91.9）	
	就職・進学はしない	25（3.1）	14（3.2）	11（2.9）		10（3.5）	15（2.9）	
	まだ考えていない	37（4.6）	15（3.5）	22（5.9）		10（3.5）	27（5.2）	
	考えている群	767（95.4）	416（96.5）	351（94.1）	n.s.	273（96.5）	494（94.8）	n.s.
	まだ考えていない群	37（4.6）	15（3.5）	22（5.9）		10（3.5）	27（5.2）	
将来の結婚	結婚したい	727（90.4）	398（92.3）	329（88.2）		272（96.1）	455（87.3）	
	結婚したくない	36（4.5）	22（5.1）	14（3.8）		7（2.5）	29（5.6）	
	考えたことがない	41（5.1）	11（2.6）	30（8.0）		4（1.4）	37（7.1）	
	考えている群	763（94.9）	420（97.4）	343（92.0）	n.s.	273（96.4）	484（92.9）	***
	考えたことがない群	41（5.1）	11（2.6）	30（8.0）		4（1.4）	37（7.1）	
将来子どもをもつこと	子どもが欲しい	730（90.8）	399（92.6）	331（88.7）		3（94.0）	464（89.1）	
	子どもは欲しくない	33（4.1）	17（3.9）	16（4.3）		12（4.2）	21（4.0）	
	考えたことがない	41（5.1）	15（3.5）	26（7.0）		5（1.8）	36（6.9）	
	考えている群	763（94.9）	416（96.5）	347（93.0）	*	278（98.2）	485（93.1）	***
	考えたことがない群	41（5.1）	15（3.5）	26（7.0）		5（1.8）	36（6.9）	

注）検定方法はPearsonの χ^2 検定による　　n.s.=有意差なし　*=p＜0.05　***=p＜0.001

表５　別・交際相手有無別にみた結婚や子どもをもつ年齢に対する考え

n=人数(%)

質問内容	回答	性別 全体（N=727）	女性（n=399）	男性（n=328）		交際相手有無 あり（n=272）	なし（n=455）	
結婚年齢	考えている	375（51.6）	221（55.5）	154（46.8）	*	171（62.9）	204（44.8）	*
	考えていない	352（48.4）	177（44.5）	175（53.2）		101（37.1）	251（55.2）	
子どもをもつ年齢	考えている	283（38.9）	170（42.6）	113（34.5）	*	137（51.5）	146（31.7）	*
	考えていない	444（61.1）	229（57.4）	215（65.5）		129（48.5）	315（68.3）	

注）検定方法はPearsonの χ^2 検定による　　*=p＜0.05

表６　妊娠・出産が生活や人生設計に及ぼす影響の認知

n=人数(%)

質問内容	程度	全体（N=797）	性別 女性（n=431）	性別 男性（n=366）	交際相手有無 あり（n=277）	交際相手有無 なし（n=520）
①いま自分が妊娠する(またはさせる)ことは、学生生活をするうえで障害となる	そう思う	683（85.7）	370（85.8）	313（85.5）	240（86.6）	443（85.2）
	ややそう思う	95（11.9）	52（12.1）	43（11.8）	32（11.6）	63（12.1）
	あまり思わない	14（1.8）	6（1.4）	8（2.2）	4（1.4）	10（1.9）
	思わない	5（0.6）	3（0.7）	2（0.5）	1（0.4）	4（0.8）
②自分(または相手)の妊娠で自分の将来が変わることになったら困る	そう思う	481（60.4）	272（63.1）	209（57.1）	163（58.8）	318（61.1）
	ややそう思う	197（24.7）	110（25.6）	87（23.8）	78（28.2）	119（22.9）
	あまり思わない	79（9.9）	35（8.1）	44（12.0）	21（7.6）	58（11.2）
	思わない	40（5.0）	14（3.2）	26（7.1）	15（5.4）	25（4.8）
③もし自分が予定外の妊娠をしたら(またはさせたら)経済的に困る	そう思う	646（81.1）	351（81.4）	295（80.6）	223（80.5）	423（81.3）
	ややそう思う	115（14.4）	63（14.6）	52（14.2）	39（14.1）	76（14.6）
	あまり思わない	28（3.5）	15（3.5）	13（3.6）	12（4.3）	16（3.1）
	思わない	8（1.0）	2（0.5）	6（1.6）	3（1.1）	5（1.0）
④もし自分が予定外の妊娠をしたら(またはさせたら)周りの目が気になる	そう思う	400（50.2）	226（52.4）	174（47.5）	128（46.2）	272（52.3）
	ややそう思う	180（22.6）	112（26.0）	68（18.6）	73（26.4）	107（20.6）
	あまり思わない	127（15.9）	66（15.3）	61（16.7）	45（16.2）	82（15.8）
	思わない	90（11.3）	27（6.3）	63（17.2）	31（11.2）	59（11.3）
⑤自分が予定外の妊娠をしても(またはさせても)大したことはない(逆転内容)	そう思う	43（5.4）	18（4.1）	26（7.1）	10（3.6）	33（6.4）
	ややそう思う	31（3.9）	18（4.1）	14（3.8）	10（3.6）	21（4.0）
	あまり思わない	144（18.1）	72（16.7）	70（19.1）	55（19.9）	89（17.1）
	思わない	579（72.6）	323（75.0）	256（69.9）	202（72.9）	377（72.5）
⑥妊娠のことは、妊娠したときに考えればいいことだ(逆転内容)	そう思う	40（5.0）	14（3.2）	26（7.1）	15（5.4）	25（4.8）
	ややそう思う	66（8.3）	37（8.6）	29（7.9）	22（8.0）	44（8.5）
	あまり思わない	181（22.7）	102（23.7）	79（21.6）	56（20.2）	125（24.0）
	思わない	510（64.0）	278（64.5）	232（63.4）	184（66.4）	326（62.7）
⑦できちゃった結婚でもかまわない(逆転内容)	そう思う	88（11.0）	40（9.3）	48（13.1）	27（9.8）	61（11.7）
	ややそう思う	117（14.7）	59（13.7）	58（15.9）	43（15.5）	74（14.3）
	あまり思わない	272（34.1）	142（32.9）	130（35.5）	80（28.9）	192（36.9）
	思わない	320（40.2）	190（44.1）	130（35.5）	127（45.8）	193（37.1）

２）意思決定スキル

この項目は，無回答者49名を除く762名で分析をした。回答結果を表7に示した。

①自分が面倒くさければ，避妊しない時がある（逆転内容），②相手に面倒くさいと言われたら避妊をしない時がある（逆転内容），⑤今は絶対に妊娠する（またはさせる）ことを避けたい，の3項目は「そう思う」「ややそう思う」と答えた学生が，それぞれ87.4%，86.2%，91.1%と，他の項目に比べ学生の意識が高い項目であった。

この項目全体の学生の平均点は16.08±28.37であった。正規性の検定を行った結果，正規性は認められなかったため，項目全体の得点について性別・交際相手の有無別でMann-WhitneyU検定を

表７　避妊の意思決定の程度

n=人数(%)

質問内容	程度	全体（N=762）	性別 女性（n=410）	性別 男性（n=352）	交際相手有無 あり（n=277）	交際相手有無 なし（n=485）
①自分が面倒くさければ避妊しないことがある(逆転内容)	そう思う	43（5.6）	19（4.6）	24（6.8）	19（6.9）	24（4.9）
	ややそう思う	53（7.0）	26（6.4）	27（7.7）	25（9.0）	28（5.8）
	あまり思わない	128（16.8）	58（14.1）	70（19.9）	44（15.9）	84（17.3）
	思わない	538（70.6）	307（74.9）	231（65.6）	189（68.2）	349（72.0）
②相手に面倒くさいと言われたら、避妊をしない時がある(逆転内容)	そう思う	40（5.3）	17（4.2）	23（6.5）	20（7.2）	20（4.1）
	ややそう思う	65（8.5）	30（7.3）	35（10.0）	23（8.3）	42（8.6）
	あまり思わない	157（20.6）	76（18.5）	81（23.0）	51（18.4）	106（21.9）
	思わない	50（65.6）	287（70.0）	213（60.5）	183（66.1）	317（65.4）
③避妊できない状況でもセックスをすることがある(逆転内容)	そう思う	79（10.4）	41（10.0）	38（10.8）	42（15.1）	37（7.6）
	ややそう思う	86（11.3）	47（11.5）	39（11.1）	36（13.0）	50（10.3）
	あまり思わない	128（16.8）	52（12.7）	76（21.6）	37（13.4）	91（18.8）
	思わない	469（61.5）	270（65.8）	199（56.5）	162（58.5）	307（63.3）
④避妊のために低用量ピルを使いたい(または使って欲しい)	そう思う	133（71.5）	61（14.9）	72（20.5）	36（13.0）	97（20.0）
	ややそう思う	148（19.4）	84（20.5）	64（18.2）	40（14.4）	108（22.3）
	あまり思わない	184（24.1）	98（23.9）	86（24.4）	69（24.9）	115（23.7）
	思わない	297（39.0）	167（40.7）	130（36.9）	132（47.7）	165（34.0）
⑤今は絶対に妊娠すること(またはさせること)を避けたい	そう思う	601（78.9）	332（81.0）	269（76.4）	217（78.3）	384（79.2）
	ややそう思う	93（12.2）	47（11.5）	46（13.0）	39（14.1）	54（11.1）
	あまり思わない	25（3.3）	10（2.4）	15（4.3）	7（2.5）	18（3.7）
	思わない	43（5.6）	21（5.1）	22（6.3）	14（5.1）	29（6.0）

行った。結果，性別の平均点では女性が16.26±2.68，男性が15.88±2.95であり，有意な差は認められなかった（p＝0.073）。しかし交際相手の有無別の平均点では，交際相手ありが15.62±2.92，交際相手なしが16.34±2.75であり，交際相手なしのほうが，有意に意思決定スキルが高かった（p＝0.01）。

3）コミュニケーションスキル

この項目は，「現在交際相手がいる」と答えた学生283名のうち，無回答者23名を除く260名で分析をした。

「セックスをしたくない時に，相手にその気持ちを伝えることができるか」（以下a.とする）の質問に対し，「できる」と回答したものは159名（61.2%）であり，「できない」と回答したものは5名（1.9%）であった。「交際相手とセックスや避妊について話をするか」（以下b.とする）の質問に対しては，「話したことがない」と回答した学生は48名（18.5%）であり，「交際相手と妊娠したらどうするか話をするか」（以下c.とする）への回答は，76名（29.2%）であった。話す頻度に差はあるものの，交際相手と避妊や妊娠した場合のことについて，会話をもつ学生のほうが多いことが分かった。

今回は，会話の有無だけでなく，自分の本音を伝えることができているかを知るために，b.c.の質問に対しては，自分の本音についても尋ねた。「話したことがない」と答えた学生を除き，それぞれの分析対象者はb.204名，c.175名であった。

b.の結果を表8に示した。「セックスをする時には必ず避妊をする」と答えた学生は，本音161名（78.9%），話し合いの結果55名（76.0%）であり，ともに最も多かった。女性は「セックスをするときには必ず避妊をする」に対し，本音87名（80.6%），話し合いの結果79名（73.1%）であり，必ず避妊をするという思いを伝えられていないものが多かった。

c.の結果を表9に示した。「はっきり決めていない」と答えた学生が本音71名（40.6%），話し合いの結果105名（60.0%）で，ともに最も多かった。女性のほうが「中絶する」に対し，本音26名（27.4%），話し合いの結果10名（10.5%）で，本音では男性よりも中絶を考えているものが多かった。

Ⅵ．考察

1．性行動の実態について

1）交際相手の有無

現在交際相手がいると回答した学生は，811名中283名（34.9%）であった。武内（2003）が4年

表8　セックスや避妊についての話し合い結果と本音

	回答	全体(N=204)	女性(n=108)	男性(n=96)
話し合いの結果	妊娠を避けるためにセックス自体をしない	4（ 1.9 ）	3（ 2.8 ）	1（ 1.0 ）
	セックスをするときには必ず避妊をする	155（ 76.0 ）	79（ 73.1 ）	76（ 79.2 ）
	セックスをするときには場合により避妊をする	23（ 11.3 ）	14（ 13.0 ）	9（ 9.4 ）
	子どもができても構わないので避妊はしない	3（ 1.5 ）	3（ 2.8 ）	0（ 0.0 ）
	はっきり決めていない	19（ 9.3 ）	9（ 8.3 ）	10（ 10.4 ）
自分の本音	妊娠を避けるためにセックス自体をしない	7（ 3.5 ）	5（ 4.6 ）	2（ 2.1 ）
	セックスをするときには必ず避妊をする	161（ 78.9 ）	87（ 80.6 ）	74（ 77.1 ）
	セックスをするときには場合により避妊をする	27（ 13.2 ）	13（ 12.0 ）	14（ 14.6 ）
	子どもができても構わないので避妊はしない	1（ 0.5 ）	1（ 0.9 ）	0（ 0.0 ）
	はっきり決めていない	8（ 3.9 ）	2（ 1.9 ）	6（ 6.3 ）

表9　もし妊娠した場合についての話し合い結果と本音

n=人数（%）

	回答	全体(N=175)	女性(n=95)	男性(n=80)
話し合いの結果	出産する	51（ 29.1 ）	23（ 24.2 ）	28（ 35.0 ）
	中絶する	19（ 10.9 ）	10（ 10.5 ）	9（ 11.2 ）
	はっきり決めていない	105（ 60.0 ）	62（ 65.3 ）	43（ 53.8 ）
自分の本音	出産する	62（ 35.4 ）	28（ 29.4 ）	34（ 42.5 ）
	中絶する	42（ 24.0 ）	26（ 27.4 ）	16（ 20.0 ）
	はっきり決めていない	71（ 40.6 ）	41（ 43.2 ）	30（ 37.5 ）

制大学と短期大学生2584名を対象に調査した結果では，大学生の生活の中で男女交際・恋愛の占める比重が強いと答えた学生は33%であった。武内の結果は交際の有無ではなく，生活に占める男女交際・恋愛の比重であるためそのまま比較することは難しいが，本研究の結果と照らし合わせて考えても，交際や恋愛に関心をもつ大学生は半数にも満たないことが予測された。

２）これまでに経験した性体験

セックス経験がある学生の割合は，56.1%で性差はなく，この結果は日本性教育協会（2007）が大学生を対象に実施した調査結果の61%と，ほぼ同様であった。デート経験～セックス経験について，現在交際相手がいる学生と過去にいた学生の比較では，現在交際相手がいる学生のほうが，有意に経験率が高かった。このことから，性行動は大学入学後に特に活発化していることが予測される。

３）交際相手とのセックス経験の現状

⑴　避妊の頻度と方法

現在の交際相手とセックス経験があると回答した247名に，避妊の頻度と方を尋ねた。その結果，男性は77.6％，女性では72.9％が「避妊をいつもしている」と答え，方法はコンドームが94.3%，膣外射精22.3%，荻野式7.7%の順に多かった。日本性教育協会（2007）が大学生を対象に実施した調査結果では，「避妊をいつもしている」と答えた男性が61.7%，女性が62.7%で，方法は本研究の結果と同様の順に多かった。

避妊の頻度で「いつもしている」の回答が多かった要因として，避妊の捉え方に個人差があったことが予測される。その理由は，頻度で「いつもしている」と回答しながら，方法で膣外射精や荻野式を選択している等，頻度と方法の両方を確実に実行できていない学生もいたからである。不確実な避妊により，予期しない妊娠をする可能性のある大学生が，３～4割存在することが，本研究でも明らかとなった。

使用している避妊方法は，男性主体であるコンドームと膣外射精が圧倒的に多く，女性主体で高い避妊効果が期待できる低用量ピルは2.8%にとどまっている。低用量ピルの使用率は，日本性教育協会（2007）は2.2%，日本家族計画協会（2007）は1.5%と報告しており，その普及率は低い。日本家族計画協会（2007）は半数以上が「副作用が心配」という理由で低用量ピルを使用していないことを明らかにしている。低用量ピルは日本でも1999年に認可され，その高い避妊効果だけでなく，月経前症候群や月経周期の改善，卵巣がんや子宮体がんなどの発生頻度低下など，多くの副効用も認められている（松本ら，2006）。低用量ピルの高い避妊効果を伝えるとともに，その安全性や副効用も含め，さらなる情報提供が必要であると考える。

⑵　避妊をしない理由

避妊の頻度で「いつもしている」と回答した学生以外には，避妊をしない理由を尋ねた。その結果，男女とも「多分妊娠しないと思うから」「準備していないから」「面倒くさいから」が上位に挙がった。これらの理由は，順番が若干異なる程度で，平田ら（2004），今野ら（2006）とほぼ同様の結果であった。「多分妊娠しない」という安易な考え，「面倒くさい・準備していない」という自分本位で相手任せの考えが，避妊の不確実性と関連していると推察される。

２．ライフスキルの実態について

１）目標設定スキル

人生キャリア計画性尺度を性別および交際相手別で分析した結果，いずれも中間点以上であり，松井（2009）が大学３年生以上に調査した平均点と比較しても，高い結果であった。このことから，今回の研究対象は比較的人生キャリア計画性が高い集団であったと推測される。この項目は，交際相手有無別で有意差があり，交際相手あり群のほうが，有意に人生キャリア計画性が高いことが分かった。また，将来の結婚や子どもをもつことに対する考えでも，交際相手あり群のほうが，有意に「考えている」ものが多かった。これらから，交際相手の有無は，目標設定スキルに影響を与えるものと推察された。

忠津ら（2009）が，性交経験と結婚思考は関連が深いと述べているように，交際相手あり群のほうが，セックス経験に伴い，結婚や子どもをもつことに対して具体的に考える機会が増えると推察される。そのため，これらの目標設定スキルが高くなったものと考えられる。

妊娠・出産が生活や人生設計に及ぼす影響の認知は，性別で有意差があり，女性のほうが有意に，妊娠・出産が自分の生活や人生設計に影響をおよぼすというリスクを感じていることが分かった。女性は妊娠・出産に伴う生理的変化により，学業の中断が余儀なくされる（安達，2008）など，直接的な影響が大きいことが，有意差の生じた要因

として考えられる。

2）意思決定スキル

避妊の意思決定は，交際相手有無別で有意差があり，交際相手なし群のほうが，有意に意思決定スキルが高かった。交際相手がいる学生は，実際にセックスをする場面において，その場の状況や相手との関係性等で，避妊実行の意思決定が貫けないことを体験しているためと推察される。性行動は，相手との関係性において決定・実行される特性がある（山口ら，2007）ことを裏付ける結果といえる。

3）コミュニケーションスキル

現在交際相手がいると答えた学生のうち「セックスをしたくない時に相手にその気持ちを伝えることができるか」の質問に対し，約6割が「できる」と回答した。これは日本性教育協会（2007）の結果と同様であった。

交際相手とセックスや避妊について話をするか，および交際相手と妊娠したらどうするか話をするかの問いに対し，「話したことがない」と回答した学生はそれぞれ2割，3割であった。これらのことから，多くのカップルが性について会話をしていることが分かった。

その一方で，女性のほうが話し合いの結果と自分の本音が一致していない傾向が明らかとなった。ここから，女性は避妊や出産について，本音を伝えきれていないことが推察された。福本（2004）も，ジェンダー意識が要因となり，女性は避妊などの希望を言い出せない傾向にあると述べているが，本研究でも同様の傾向にあることが分かった。

4．研究の限界と今後の課題

本研究の対象者は，便宜的抽出法により抽出した大学生である。そのため学年にばらつきがあったことや，学部も文系と理系の割合に大きな差がみられたことなどから，今回のデータを一般化して述べるには限界がある。

また，本研究は先行研究を参考に質問項目を設け，アンケート形式で行ったが，より具体的な現状を把握するためには，自分の意思決定が阻害されるのはどのような時か，どのような時に交際相手と将来の話や性に関する話をするか，具体的にどのような話をするかなど，質的なデータも必要であると考える。また，コミュニケーションについては，自分の伝えたい内容が正確に伝わっているかも重要であるため，カップルでデータを収集し，分析していく必要があると考える。

Ⅶ．おわりに

大学生全体では6割がセックスの経験があり，交際相手がいる学生では9割がセックスの経験があることが分かった。しかし，確実な避妊行動をとれている学生は6割程度であり，望まない妊娠を予防するためにも確実な避妊行動をとれるよう，アプローチしていく必要がある。大学生のライフスキルは，性別や交際相手の有無によっても左右される特性があることが分かったため，今後はライフスキルと性行動の関連を分析し，ライフスキルを基盤とした性教育の方法を考えていきたい。

謝辞

本研究に際し，研究の趣旨をご理解いただき，研究へご協力いただきました近畿圏内の大学の学部長様，担当してくださった教員の皆様，プライベートな質問に貴重な時間を割いて質問の一つ一つに丁寧に回答をしていただきました学生の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

なお，本研究は平成21年度大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程の課題研究の一部を加筆・修正したものである。

引用文献

WHO（編），川畑徹郎，西岡信紀，高石昌弘ら（監訳）（1997）：WHOライフスキル教育プログラム．大修館書店，東京．p.12

参考文献

安達久美子（2008）：わが国の10代出産の動向と諸外国現状．思春期学26（1），123-127.

福本環（2004）：男女大学生の避妊に対する態度―性差，性交経験の有無の差からの検討―．思春期学，22（2），227-234.

羽岡佐和子，大野えりか，藤堂彩子ら（2006）：独身男性の避妊行動と意識の実態．日本看護学会論文集；母性看護，37，55-57.

平田伸子，野崎雅裕，溝口全子ら（2004）：大学生の性および生殖に関する意識・行動の実態．思春期学22（4），235-247.

木村正治（2001-1）：中・高校生に対するライフスキル学習を基盤においた性教育，生活教育45（1），38-42.

川畑徹朗（2002）：ライフスキル教育，治療84（8），153-157.

川畑徹朗，石川哲也，勝野眞吾ら（2007）：中・高生の性行動の実態とその関連要因―セルフエスティームを含む心理社会的変数に焦点を当てて―，学校保健研究49，335-347.

今野木綿子，西脇美春(2006)：大学生における性知識・性モラルと性行動との関係．山形保健研究，9，33-47．
厚生労働省(2009)：平成17年度出生に関する統計の概況．http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/syussyo05/syussyo3.html(2011/9/3)
松井賢二(2009)：大学におけるキャリア教育の効果(Ⅱ)．新潟大学教育学部研究紀要，2(1)，65-77．
松本淳子，武田敏(2004)：ライフスキルトレーニング教育プログラムによるコンドームに対する青年の意識・態度の変化，思春期学，22(3)，337-344．
松本安代，山辺晋吾，浅原彩子ほか(2006)：低用量ピル投与の現状，産婦人科の進歩58(2)，130-135．
日本家族計画協会(2007)：第3回　男女の生活と意識に関する調査報告書　―性に関する知識，意識，行動について―．家族計画協会，東京．
日本性教育協会(2007)：「若者の性」白書―第6回　青少年の性行動全国調査報告―．小学館，東京．
坂柳恒夫(1999)：成人キャリア成熟尺度(ACMS)の信頼性と妥当性の検討．愛知教育大学研究報告，48，115-122．
関塚真美，関秀俊，笹川寿之ら(2004)：大学生の避妊行動とSTD予防行動における自己決定意志．思春期学，22(1)，149-156．
忠津佐和代，高見千恵，梶原京子(2009)：大学生の将来設計と性意識・行動の調査―青年期ピアカウンセリングの基礎資料として―．思春期学，27(2)，211-221．
武内　清(2003)：キャンパスライフの今．玉川大学出版部，東京．
富岡美佳(2007)：中学生と対象としたライフスキルトレーニングを用いた性教育プログラムの効果，思春期学，25(4)，436-444．
山口(久野)孝子，小笠原昭彦，堀田法子(2007)：大学生の避妊に対する態度と行動とのずれに関する研究．小児保健研究，66(1)，83-91．